

第 183 回 東京都中央区の松本治一郎像

筆者：林 久治（記載：2022 年 2 月 22 日）

（1）前書き

私（筆者の林）は [Random Walks（乱歩）](#) という題名で [偏屈老人（林久治）の気促な紀行文](#) のサイトを始めている。私の紀行文では、通常の紀行文にはない、斜め目線からのご紹介を書くことに拘りたいと思います。通常の紀行文に関しては、既に優れたサイトが沢山ありますので、それらをも引用しつつ、ユニークなご紹介を記載することに心掛ける所存です。

一方、私は日本の銅像探偵団 ([1\) のサイト/](#)) の銅像探索に参加している。私は珍しい銅像を探して、探偵団の団長さんに「ギャフン！」と仰っていただけることを目標としている。ここで「珍しい」とは、「①見つけ難い場所に隠れている有名人の銅像。②市井で頑張っって人生を過ごしたが、有名人ではない人物の銅像」と言う意味である。私は自宅が東京にあり、孫達が大阪にいますので、主として東京近郊と近畿地方で銅像探索を行っている。最近、私はネット記事を丹念に調査し、そのような「スクープ銅像」の候補を多数見つけている。

武漢肺炎による自粛生活で家に籠っていると、運動不足で体重が増加するし、精神的にも圧迫を感じる。私の銅像探索は不要不急の活動ではなく、私の生存に必要な不可欠である。図 1 には、日本全国の 1 日当たりの新規感染者数を表す。昨年の東京五輪一パラの開催期間には、第 5 波の感染があったが (8/26:25,040)、何故か秋になると激減した (12/6:59)。これで終焉するかと期待していたが、本年になって第 6 波が到来してしまった (2/4:104,463)。

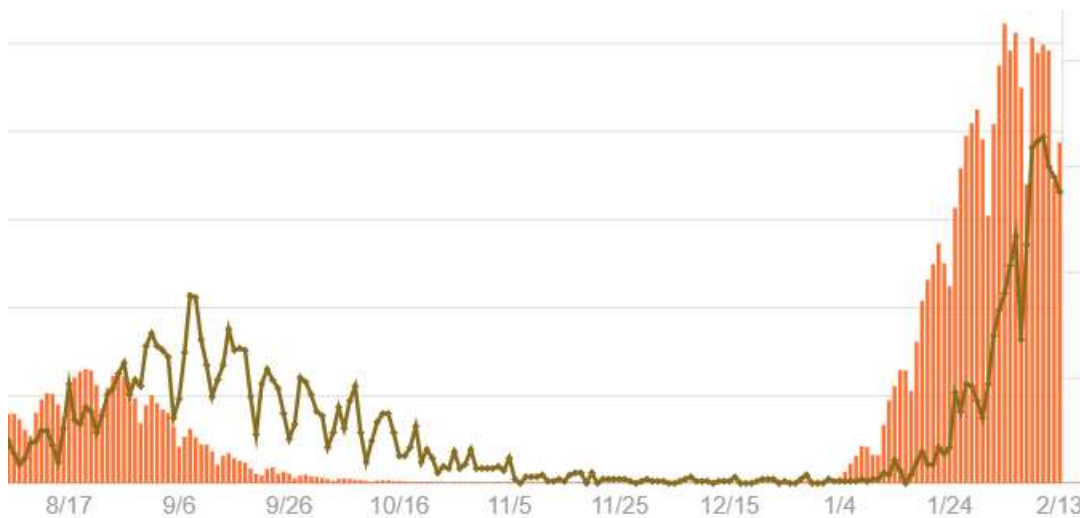


図 1. 武漢肺炎の日本全国の 1 日当たりの新規感染者数を縦軸に示す。本図は、[2\) のサイト/7](#) より借用。

私は 12 月 21 日に山野美容専門学校の子野夫妻像を探索し、その探索記を [179 回の記事/f](#) に記載した。それ以降は、第 6 波が急に到来したので、暫くは銅像探索を自粛していた。幸いなことに、私は第 3 回目の予防接種を 1 月 28 日に受けることが出来た。2 月 11 日には、接種から 2 週間が経過した。そこで、私は 2 月 12 日に自宅から近場で交通機関が空いている場所として、亜細亜大学の太田耕造像と杉並区のイエス像を選び銅像探索を再開し、その探索記を [前回の記事/f](#) に記載した。

[3\) のサイト/m](#)には、「部落解放の父」と呼ばれる松本治一郎先生の胸像が掲載されている。しかし、本像は銅像探偵団のサイト ([1\) のサイト/](#))には収録されていない。そこで、私は2月18日に本像を探索した。本稿はその探索記である。なお、本稿では資料からの引用を**緑文字**で、私の注釈や意見は**青文字**で記載する。

(2) 松本治一郎記念会館

[3\) のサイト/m](#)によれば、松本像は東京都中央区の松本治一郎記念会館（東京都中央区入船1-7-1）に設置されている。本館の周辺地図を図1に示す。



図1．松本治一郎記念会館の周辺地図、本図は[4\) のサイト5](#)より借用。

①：入一地蔵菩薩、②：松本治一郎記念会館の場所。

図1で示すように、松本治一郎記念会館（以後は本館と書く）は、図1の②地点にある。そこに行く道順は次の通りである。

八丁堀駅（JR京葉線、または地下鉄日比谷線）で下車→A2口から地上に出る→桜川公園の傍を通る→入一地蔵菩薩（図1の①地点）の角を左に曲がる→本館に到着（②）

次ページの図2に入一地蔵菩薩の写真を示す。[5\) のサイト/1](#)には、次のような説明が書かれている。

桜川公園の南側に小さな祠がある。入一地蔵菩薩の幟が建つ境内に「むしば祈禱石」が建立されている（図2下）。この地は江戸初期に開削された堀割の八丁堀（明治期以降は桜川）が北側に流れ、中の橋が架かっていた南詰東側であって、かつては南八丁堀と呼ばれていた。「入一」とは入船町一丁目から名付けられた地蔵尊である。



図2. 入一地蔵菩薩、この祠の場所は図1の①地点である。

(本文は、次ページに続く。)

図2下の写真で、3体の菩薩像の向かって左側にある石が有名な「むしば祈禱石」である。[5\)のサイト/1](#)によれば、この石には次のような面白い伝承がある。あぶら石：京橋区南八丁堀二丁目の路傍（みちばた）に、周（まはり）三尺余高さ二尺余のあぶら石と称する自然石（じねんせき）が古くより存在してゐる、以前は表面も頗る滑（なめら）かがあつたが、数年前火災に罹（かゝ）つて油石の油も燃切り、今はガサガサ石と変じて了（しま）つた、何の理窟か分らぬが古来歯痛（はいたみ）の願を懸けるものが夥（おびた）だしい、又油石の下には石で作つた男女の首が埋めてあるといふ説もある。（「東京朝日新聞」明治40年（1907）12月15日付）



図3．松本治一郎記念会館の1階玄関

入一地藏菩薩（図1の①地点）の角を左に曲がると、直ぐに本館（図1の②地点）に到着した。本館は7階建てのこじんまりしたビルである。その玄関付近の写真を図3に示す。ガラス戸には「部落差別を無くす」などのビラが貼られていた。また、ガラス戸越しに、内部に胸像が見えた。本ビルには表示無かったが、ここが目指す記念館であることが分かった。

（3）松本治一郎像

次ページの図4に、松本治一郎像を示す。本像の周辺には、立憲民主党や社民党のポスターが貼られ、資料らしい書類の束が積んであった。

（本文は、6ページに続く。）



図4.
上：松本治一郎像の周辺
下：本像の近接写真



図5. 左：台座正面の銘文、右：「不可侵不可被侵」の本の表紙。本図は[6\)](#)の[サイト/3](#)より借用。

図5左に、台座正面の銘文を示す。それには、次のように書かれていた。

松本治一郎像

不可侵不可被侵 松本書

「不可侵不可被侵」は松本語録の一つで、「侵さず侵されず」と読む。本文は松本氏の代表的著作の一つの題名にもなっている（図5右を参照）。本書の概要は次の通りである（[6\)](#)の[サイト/3](#)を参照）。

題名：不可侵不可被侵—松本治一郎対談集

発行シリーズ：部落解放新書 1

発行社：解放出版社

発刊日：1977年3月1日

ウィキペディアによれば、松本氏の有名な語録は次の通りである。

①「不可侵不可被侵（侵さず侵されず）」

②「貴族あるところ賤族あり」

③「酒は飲まない。タバコは吸わない。バクチをしない。妻帯しないし、女性を買わない。ネクタイをしない」（この五戒を若い頃は別として生涯堅持したという。若い頃は酒

豪かつヘビースモーカーであったが、三十代半ばの頃の拘留を機に「獄中では人間の欲望は敵である、社会運動をやる者は万年被告の心構えが必要」と禁酒禁煙に踏み切った。）

④「権力と闘ってきた私を、なんと考えておるのか。天皇から叙勲式とか親授式とか、そんなことができるなら、この松本の闘争は存在しなかったはずだ。勲章を欲しがり、権威をふりまわそうとする。この考えが部落差別を残すことにつながっている」（勲一等拒否の弁）

⑤「私の闘ってきた相手は君ではない。君の背後にあるものだ。君が悪かったと反省しているならそれでよい」（戦後になってわびを入れてきた元刑事に）



図6. 左：台座背面の彫文、右：本像背面の彫文。

図6左に台座背面の彫文を示す。それには、次のように書かれていた。

一九八二年三月三日

全国水平社創立六十周年・松本治一郎記念館落成 記念

ウィキペディアによれば、全国水平社の概要は次の通りである。

全国水平社（ぜんこくすいへいしゃ）は、1922年3月に結成された、第二次世界大戦以前の日本の部落解放運動団体である。略称は全水（ぜんすい）もしくは単に水平社。第二次世界大戦後に発足した部落解放全国委員会および部落解放同盟の前身である。全国水平社は大正デモクラシー期の日本において被差別部落の地位向上と人間の尊厳の確立を目的として創立された。水平社創立発起者は、奈良の西光万吉、阪本清一郎、駒井喜作、米田富、京都の南梅吉、桜田規矩三、近藤光、福島小平野小剣らであった。ただし、水平社は被差別民一般を視野に入れた組織ではなくあくまで穢多系の被差別者を解放するための組織であり、的ヶ浜事件に見られるように、物吉（癩者）や山窩乞食などには強い差別意識があった。

1922年3月3日、京都市岡崎公会堂にて創立大会が行われ、日本最初の人権宣言といわれる水平社創立宣言を採択した。創立大会ではまた「人間を差別する言動はいっさい許さない」と決議され、各地から集まった代表者たちは、その喜びと決意を口々に述べた。初

代委員長には滋賀県の著名な部落改善運動家であった南梅吉が就任した。結成当初の水平社は、差別を古くからの因習によるものにとらえ、差別者に対する「徹底的糾弾」方針をとっていたが、糾弾闘争の進展は一方で部落の内外の溝を深めるとの反省が出てきた。その一方でアナ・ボル論争などの影響から、1923年11月松田喜一ら若手活動家を中心に結成された全国水平社青年同盟（のち1925年9月「全国水平社無産者同盟」に改組）が階級闘争主義と労農水提携（労農運動と水平社運動の提携）を掲げいわゆる「ボル派」として全水内部で次第に力を増してきた。全水のボル派は、1924年11月、南・平野小剣ら従来の幹部を「スパイ問題」（南・平野らが警察幹部と交際があったというもの）を理由に辞任に追い込み全水本部の主導権を掌握（その後委員長には松本治一郎が就任）、1926年（大正15年）の第5回大会では「部落差別は政治・経済・社会的側面に基づく」との認識に基づき、軍隊内差別や行政による差別を糾弾し労働者・農民の運動と結合する新方針が決議された。

図6右に本像背面の彫文を示す。それには、次のように書かれていた。

1982 CHURYO

これは本像作者のサインであるが、これだけでは作者の特定が困難であった。しかし、[3\) のサイト/m](#)に「松本治一郎像 は佐藤忠良作」との記載があったので、作者の特定が可能となった。

ウィキペディアによれば、佐藤忠良の略歴は次の通りである。

佐藤 忠良（さとう ちゅうりょう、1912年7月4日 - 2011年3月30日）は、日本の彫刻家。舟越保武とともに日本を代表する彫刻家。新制作協会彫刻部創立会員。

1912年、宮城県黒川郡大和町落合舞野に生まれる。6歳で父が死去したため幼少期は母の実家である北海道夕張で過ごす。

1925年、旧制札幌第二中学（現北海道札幌西高等学校）に入学。

1932年、上京し川端画学校にて学ぶ。

1934年、東京美術学校彫刻科入学。

1939年、美校卒業後、同期の舟越保武らと共に新制作派協会彫刻部の創設に参加する。

1945年から1948年までシベリア抑留に遭う。

1954年、第1回現代日本美術展佳作賞受賞。

1959年、東京都杉並区永福にアトリエを構え、死去するまで当地に在住。

1960年、第3回高村光太郎賞受賞。

1966年、東京造形大学創立と共に教授に就任。

1974年、第15回毎日芸術賞、芸術選奨文部大臣賞受賞、翌年には第6回中原悌二郎賞受賞、第3回長野市立野外彫刻賞受賞。

1977年、第5回長野市立野外彫刻賞受賞。

1981年、フランス国立ロダン美術館で個展。

1986年、東京造形大学名誉教授に就任。

1989年、朝日賞受賞。

1990年、宮城県美術館内に佐藤忠良記念館設立。

1992年、第41回河北文化賞受賞。

2011年3月30日、老衰のため東京都杉並区永福の自宅で死去。98歳没。

生前、日本芸術院会員に推薦され、文化功労者や文化勲章の候補にも選ばれたが、本人は「職人に勲章は要りませんから」と語り、国家の賞を全て辞退した。また杉並区の名誉区民賞も辞退している。

松本治一郎氏の経歴は、次の資料に詳しく紹介されている。

①ウィキペディア

②20世紀日本人名事典「松本 治一郎」の解説 ([7](#)) のサイト/6)

③部落解放同盟中央本部のHP:部落問題資料室 ([8](#)) のサイト/1)

以上の資料などにより、松本像の概要は次の通りである。

松本治一郎像

設置場所：東京都中央区入船 1-7-1 松本治一郎記念会館 1階ロビー

建立時期：1982年3月3日 全国水平社創立六十周年・松本治一郎記念会館落成記念

制作者：佐藤 忠良（ちゅうりょう、1912.7.4-2011.3.3, 宮城県出身）

設置経緯：松本治一郎（1887.6.18-1966.11.22）は福岡県筑紫郡豊平村（現・福岡市）出身。1900年に住吉高等小学校を卒業後、私塾の粕屋学園や京都の旧制干城中学校（後に廃校）を経て上京し、旧制錦城中学校（現在の錦城学園高等学校）を中退。1907年に大連へ渡り、大道易者や偽医者として生計を立てる。1910年、日本総領事に強制送還されて帰国。1911年土建業松本組を設立。部落差別撤廃運動を始め、1922年筑前叫革団を結成。1923年九州水平社委員長から、1926年以降全国水平社中央委員会議長。その間、“徳川家達暗殺未遂事件”“福岡連隊爆破陰謀事件”などで投獄される。1936年以来、衆院選に3選。戦後1946年部落解放全国委員会が結成され、中央執行委員長。1947年社会党から参院に当選。初代参院副議長に選ばれたが、1948年天皇への単独接見を拒否し、公職追放となる。1951年解除後、政界に復帰し、1953年から参院選に3選。また1955年部落解放全国委員会が部落解放同盟と改称して初代執行委員長。同年社会党内に平和同志会をつくった。ほかに、日中友好協会会長を務めたり、アジア・アフリカ会議に日本代表とした参加。「部落解放の父」と呼ばれる。

参考資料

1) のサイト：<https://douzou.guidebook.jp/>

2) のサイト：<https://news.yahoo.co.jp/pages/article/20200207>

3) のサイト：<https://blhrri.org/old/nyumon/post-war60/054.htm>

4) のサイト：<https://mapfan.com/spots/SCC5A,J,305>

5) のサイト：<https://tokuhain.chuo-kanko.or.jp/archive/2014/07/57.html>

6) のサイト：<https://www.kinokuniya.co.jp/f/dsg-01-9784759283013>

7) のサイト：[松本 治一郎とは - コトバンク \(kotobank.jp\)](http://www.kotobank.jp/)

8) のサイト：<http://www.bl1.gr.jp/archive/s-ta-matum.html>